

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム よろこびの家 茉景1階	評価実施年月日	平成20年1月1日
評価実施構成員氏名	高谷・松永・竹原・三浦・内田・石田・塚本・明上・藤原		
記録者氏名	高谷	記録年月日	平成20年1月1日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念	理念は毎日の朝礼時に復唱している。又、スタッフルーム等に掲示している。新規採用者にはオリエンテーション時に説明している。		理念については職員で話し合い新しい理念を作っていきたい。
2 理念の共有と日々の取り組み	理念を館内に掲示し、朝礼時に唱和している。また、いつでも理念を念頭に置く事を目的にして、日々の介護・自分・他の職員にも注意し合える環境を作っている。新人オリエンテーションの際には特に理念の大切さと意味の理解に努めている。		理念を実行していくには1、ご本人の心に寄り添い、生き生きと笑顔ある生活が送れるよう支援する。2、馴染みある生活空間を作り、ご本人の力が可能な限り発揮できるよう支援する。3、地域とのふれあいを通し、自由で豊かな心と生活が保てるように支援する。4、家族の方が安心と満足を得られ、ご本人との楽しい時間が過ごせるように支援する。この事が出来ているか、常に職員と話し合いを行っています。
3 家族や地域への理念の浸透	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	広報誌に理念を掲載したり、運営推進会議でも理念の大切さを述べている。	理念を掲示したりしていますが、より良いグループホームを目指していく上で随時理念を見直して改善していきたい。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	行事の時等は、あいさつ文を作り参加して頂けるよう挨拶をしている。近所の方々には挨拶を行っているが、まだ気軽な付き合いができていない。	散歩時等にお会いした時は挨拶をするように職員間で徹底している。近所の方が気軽に来訪して頂けるように努めたい。
5 地域とのつきあい	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の夏祭りに参加したり、近くの幼稚園の園児達や高校生の方達がホームに来て歌や踊りを披露してくれたり、入居者様と一緒に手遊びをしてくれたり、ボランティアで近所の方が、マジックショーを見せてくれたりと交流を持っている。	地域との交流が増えるように当グループホームをたくさんの方々を知って頂くよう様々な交流の場に参加し、又、来訪していただけるようにしていきたい。
6 事業者の力を活かした地域貢献	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域のお役に立てるよう、町会主催の夏祭りに参加のお誘いがあった時は参加できる体制をとっている。町会長とも参加できる事がないか、常に話をして町会の行事に参加できるように取り組みをしている。	町内会の夏祭りには毎年参加していますが、その他の行事にも積極的に参加し交流を深めていく必要があります。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		<p>今後も管理者を中心にスタッフ会議で話し合い職員全員が理解できるようにしていく。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		<p>御家族の参加が少なく、意見交換が思うように行えていないため、開催時間の日程の見直しが必要です。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		<p>今後もサービス向上のために市町村と連携を図っていきたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		<p>今後は必要な制度を利用する利用者様が増えてくると考えられるので、権利擁護を職員の誰もが説明できる体制を整えていく。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>身体拘束委員会で事例検討を行い、身体的虐待、言葉の虐待について意見交換を行っている。新しく入った職員には高齢者虐待についての資料を読み感想文を書いて貰い虐待への意識付けを行っている。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		<p>ご本人、ご家族と話す機会を作り誠意を持って相談に乗り納得して頂けるような説明を行っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情相談窓口担当者を設置して対応している。利用者様やご家族から不満や苦情が聞かれた時は職員全員で原因究明、改善策を話し合い対応できるように努めている。		各ユニットだけではなく全グループホームで情報を共有する為、全体管理者会議でくわしく報告し意見交換を行っている。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	健康状態については面会時に報告している。病院受診の結果も面会時や遠方のご家族には電話で報告している。金銭管理は管理者が行っている。レシート、領収書を保管し、帳簿は週1回管理者同士で確認し合い、本部の方にも月1回確認してもらっている。レシート、領収書、帳簿は請求書郵送時に同封している。職員の写真を掲示し、移動などがあった時には面会時にお伝えしている。		健康状態については、職員全員がご家族に報告出来る体制にはまだなっていない部分がある為、職員全員が利用者様の健康状態を把握し、説明できるようにしていきたい。金銭管理も徹底して行っていく。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情は管理者を中心に職員で対応している。苦情が出たときは会議を開き苦情の原因究明や改善策を検討している。苦情処理簿を作成し、職員全員で情報を共有し同じ苦情がでないように努めている。		スタッフ会議、全体管理者会議で苦情を受けた時から対応までを詳しく報告、話し合いを行い同じ苦情が出ないように努めている。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会議や、個人の面談を行い職員の意見や提案を聞いている。また、スタッフ会議でも話し合い共有し義務に反映している。		今後も職員が気軽に意見交換が出来るよう管理者との信頼関係を作っていく環境づくりを行っていく。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	行事等の時は職員の数を増やし事故などが起こらないように努めている。その為の勤務表作成、調整を行っている。勤務体制も管理者を中心にスタッフ会議で話し合い変更を行っている。		今後も必要に応じた勤務時間の変更を職員全員で話し合い決定していく。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	極力異動は行なわないようにしている。やむをえない事情の異動や退職は事前に利用者様に報告し動揺がないように対応している。退職や異動の希望があった時は理由を聞き原因を取り除きやむをえない理由以外に残れるように対応している。		利用者様の動揺を最小限に抑えるよう対応している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>定期的な勉強会を行ったり、法人外の研修の呼びかけ、参加を行なっている。参加したい職員には、勤務調節を行ない参加して貰い、報告書を作成してもらい参加出来なかった職員にも共有出来るようにしている。</p>	<p>技術や知識の向上の為、いろいろな勉強会や研修に参加してもらおうよう管理者が必要性を伝えている。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>地域をブロック分けにして、その中で定期的に勉強会や交流する機会があり参加している。当法人内外ではパソコンを使いメール等で情報交換を行っている。</p>	<p>今後、他の同業者と連携を図り、意見交換や勉強会に管理者だけでなく全職員が参加できるようにしていきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>悩みがあるときやストレスを感じた時は、気軽に管理者に相談出来るような環境作りを行っている。日々の会話等からでも管理者は気持ちを汲み取る努力は行っている。又、職員同士も気兼ねなく意見を言い合えるよう努めている。交流会も行っている。</p>	<p>職員同士のコミュニケーションが十分に図れていない部分がある為管理者が中心となり、職員のストレスの軽減と悩みの解消を図り働きやすい環境作りに努めていきたい。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>管理者は職員一人ひとりの目標を把握し、向上心を持って仕事が出来よう努めている。管理者は職員と人事考課と面談を行い、一人ひとりの努力や実績を大切に、尊重し合える環境作りを行っている。</p>	<p>人事考課や面談時等でアドバイスをしている。又、随時、職員と話し合える環境を作っている。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居窓口担当者と管理者が中心になり、生活の上で利用者様が困っている事、不安な事を初期から利用後も職員間で把握に努め、生活の中で常に不安や悩みを聞く機会を作っている。</p>	<p>入居されてからは、スタッフ会議やカンファレンス会議で話し合い利用者様の要望や不安を職員で情報を共有しケアにつなげている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居窓口担当者と管理者が、ご家族との面談の時に現状や困っている事、不安な事等を聞き、今後についての相談、助言をしている。</p>	<p>誰でも気軽に相談や見学が出来るように事前に連絡がなくても受け入れ、困り事等聞いて助言を行っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ケアプランの作成時に利用者様、ご家族が必要としている支援を第1のサービスにしている。利用者様一人ひとりの過去の経験を生かしたケアに向けて情報収集に努めている。		収集した情報から利用者様に合ったケアサービスを職員で検討している。 又、残存機能を把握しケアサービスに取り入れている。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用者様が馴染めるように職員は利用者様の場の雰囲気に似合ったサービスをして会話やコミュニケーションの工夫を行なっている。拒否された場合は無理強いせず時間をかけて声かけを行っている。利用者様が今一番何が必要なのかを重視しながら観察を行い職員間で検討し利用者様本位の生活を目指すよう努めている。		これまでの生活習慣を変えることなく重視する事で精神的に落ちついて生活が出来るよう努めている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者様を人生の大先輩であるという気持ちを忘れず接している。食事作り等で切り方や味付けを教えていただく等、人生の経験の中での知識や知恵を学ぶ事も忘れず一緒に過ごすことで利用者様が楽しく生活していただけるように心がけている。		利用者様ひとり一人の出来る事出来ない事を職員全員で把握し出来ない時には職員がさりげなくお手伝いを行い、職員と一緒に出来たという達成感を味わえるように努めている。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の要望を大切に利用者様と接している。ご家族へは利用者様の普段の生活・表情を面会時に話している。遠方のご家族には電話にて利用者様の生活状況や体調など報告している。又、要望などがあれば伺い希望に答えられるように努めている。		利用者様の生活状況を面会時や電話で報告し、ご家族からも要望を聞いている。今後もご家族に安心していただけるよう支援を行っていく。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	職員全員で利用者様の情報を共有し、状況報告を面会時や電話で行っている。ご家族とより良い関係を築いていくよう支援している。		面会または、電話で生活状況を報告している。状態変化、緊急受診等のとき、ご家族に協力して頂く時には連絡を行っている。行事の時にも参加して頂き利用者様と良い関係を築けるように努めている。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者様がこれまでに大切にしてきた物は身近に置いていただいている。又、長年の友人や知人との関係が続くよう面会を設け、いつでも来て頂ける様な雰囲気作りを行っている。		利用者様の希望があれば職員と一緒に行かれている。今後も継続し、人や環境などの関係が途切れないように支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者様一人ひとりの性格を把握しテーブルに座る位置を考え、孤立しないようコミュニケーションを図れるように努めている。又、利用者様同士が関われる様に職員が仲介し支えあえるように努めている。		利用者様同士がコミュニケーションを図れるよう、歌や体操などのレクリエーションやドライブ、散歩などの声かけを行い支援している。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	現在サービス利用が終了しても継続的な関わりを必要とする方がいない為評価困難である。		今後は希望される方についてはきちんと対応が出来る体制を作っていく必要がある。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	介護計画、ケアプラン等から利用者様、ご家族から暮らし方の希望や、意見を聞き一人ひとりが充実し満足して生活して頂けるよう支援している。		利用者様、ご家族から希望を聞き、カンファレンス会議で職員間で話し合い、満足のいく生活が送れるよう支援している。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に利用者様、ご家族から今までの生活を聞きフェイスシートを作成している。		利用者様一人ひとりの生活歴を職員全員が把握し慣れた生活環境で生活できるよう支援している。ご家族が面会に来られた際にご家族からも情報を得ている。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	職員間で毎日申し送りを行い、利用者様一人ひとりの心理状況、過ごし方を伝え本人の意思を尊重し本人に合わせた生活を支援している。		利用者様一人ひとりの個別のケアが提供できるよう利用者様の1日の過ごし方、心身の状態を職員間で申し送りを行っている。一人ひとりの様子や表情が分かるように記録に残している。会話の中から悩みやストレス等があれば少しでもやわらげられるように配慮していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	必要に応じて利用者様、ご家族との話し合いや会議を開き利用者様がより良く暮らせるにはどのようにしたら良いのかを考え、介護計画に反映するように心がけている。		3ヶ月毎にカンファレンス会議を行い、ケアプランの見直しを行っている。スタッフ会議でも利用者様一人ひとりがよりよい生活を送れるよう職員間で話し合っている。又、利用者様、ご家族の要望を聞きそれらをもとに介護計画、ケアプランを作成して職員全員が計画を把握し取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月毎に一度、又、状態変化時には計画作成担当者と担当職員を中心にカンファレンスやモニタリングを行い、ケアプランの見直し、改善を行っている。又、利用者様やご家族の意見等も介護計画に反映している。		カンファレンス会議、モニタリングを行いその結果に沿ってケアプランを作成している。又、利用者様やご家族の要望を大切にしてケアプランの見直しを行っている。今後も利用者様の状況の変化を見逃さずより良いケアを行っていきたい。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	一人ひとりのケア、サービスを毎日記録し職員全員が情報を把握できるようになっている。記録は、健康状態に関わることや生活の様子等が残されている。		記録、申し送りは毎日行われていて気づいた事は職員同士で話し合い改善に努めている。記録に関しては利用者様の生活面が良く分かるような記録の仕方を職員全員が出来るように努めていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	利用者様、ご家族の要望に答えられるように話し合いの場を設け、様々な対応ができるように努めている。		利用者様、ご家族の要望に添ってケアを行っていくことは、信頼関係を築く上でとても大事なことなので、今後も柔軟な支援ができるように努めていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	近隣の幼稚園や高校生、ボランティアの協力にて行事への参加等支援している。年2回、消防に協力して頂き防火訓練を行ったり、警察署の方にも来て頂き高齢者の交通安全の講義も行っている。		今後は、幼稚園、高校、ボランティア、消防、警察だけでなく多方面に協力と理解を得られるようにしていく。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	入居時に他の機関を利用していた場合はその機関の担当者と情報交換を行なっている。又、地域の他のケアマネージャーとの連携を図り情報交換を行っている。		今後は必要に応じて積極的に活用できるような支援体制の確立が必要。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	利用者様の意向や必要性により地域包括支援センターと連携できる体制は整っているが、今は利用されている方はおられない。		多様化する利用者様のニーズに応える為にも今後、地域包括支援センターとの連携や協働体制を強化する必要がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	利用者様一人ひとりのかかりつけの医療機関があり、定期的に受診している。又医療連携の看護師が週1回健康管理で訪問している。体調に変化がみられた時には医療連携看護師に相談し指示を受け対応している。		利用者様一人ひとりのかかりつけの医療機関に職員と一緒に受診し、担当医に相談したり指示をもらい対応している。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	ご家族と相談して担当医への受診を行っている。受診時には職員も一緒に行き、相談を行い助言等が受けられるようになっている。		担当医へ受診し、相談やアドバイスを貰っている。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	医療連携看護師が週1回健康管理で訪問している。その時に相談を行い指示をもらって対応しており、体調に変化があればその都度、連絡が取れる体制になっている。連絡、相談は24時間体制でいつでも対応が可能である。		医療連携看護師と24時間体制で連絡が取れるようになっていて緊急時の相談、助言ができる体制になっている。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	管理者が中心となり、入院先の病院と連絡を行い、情報交換をして早期退院に向けての支援を行っている。		入院先の担当医や看護師と連絡を取り合い症状等について話し合いを行い、早期退院に向けて連携を取っている。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ご家族が終末期をグループホームで看取りたいとの希望された時は、かかりつけの主治医に連絡し相談をして対応できるようになっているが全ての主治医と連携は図れていない。		今後は利用者様全員の主治医と協力が出来て利用者様、ご家族が安心した終末期が送れるようにしていく必要がある。現段階では看取りを行った事はないが、今後、利用者様、ご家族の希望に応えられるよう各種サービスと連携を取っていきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	サービス担当者会議で話し合い、今後の体調の変化に備え主治医を中心に検討や準備を行っている。		今後も医療連携機関と連携を図りながら支援していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	他の居宅へ移り住む時、入居の時は必ず前の居宅の関係者に利用者様の情報収集を行い、住替えによるダメージを最低限に抑えるよう努めている。		退居される方には、今後も安心して生活を送って頂けるよう、ご家族、居宅の関係者やケアマネジャーへの情報提供を行っていききたい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	利用者様のプライバシーに配慮した対応に努めており、記録や会議などの議事録には利用者様の名前は記入しないで居室番号を記入している。		個人情報の保護については利用者様、ご家族に安心感を持っていただけるように努めている。又、記録などの個人情報は鍵のかかる所に保管し鍵は管理者が保管している。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	茶話会等で飲み物を出す時は利用者様の希望を聞きながら飲み物を選んでいただいたり、食事のメニュー等も利用者様に食べたい物を聞きながらメニューを作成したり、外食や出前の時のメニューもメニュー表を見て頂き利用者様に決めていただいている。利用者様に自己決定が出来るような声かけを行い、一人ひとりに合わせた説明を行っている。		一人ひとりの好みは違うので、コミュニケーションを大事にし、会話の中からそれぞれの好みについて理解するよう努めている。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様一人ひとりのペースを大切に希望に添った支援を心がけている。個別の外出や買い物、入浴などもその日の希望を聞き対応している。		その日の希望を聞き支援しているが、十分な対応はまだできていない。今後は個別対応を心がけて支援していききたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	身だしなみについては、出来る方にはやっていただき、出来ない方には一緒に服を選んだりその人らしいおしゃれが出来るようお手伝いを行っている。又、訪問理容や美容も利用者様とご家族と相談しながら決めている。		出来る限りご本人の希望や思いを大切に、外出の際や、行事に参加される際のおしゃれや身だしなみを整える支援をしている。
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の配膳や盛り付け、調理の野菜切りや味付け等一緒に行っている。又、一人ひとりの好みを日々の会話の中から把握し、利用者様に合わせた支援を行っている。		利用者様一人ひとりの出来ること、出来ないこと等能力に合わせた取り組みを行い、利用者様と一緒にいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	現在は飲酒をされる利用者様が1名おり、本人が望むお酒を晩酌されており健康状態に合わせて、日常的に楽しんで頂いている。又、10時と15時の茶話会でも、一人ひとりの希望を聞き好みに合わせ支援している。		季節に合ったおやつを出したり、食べたいおやつを聞き、出来るかぎり利用者様の好みに合わせ本人の望みを聞き支援していきたい。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	利用者様一人ひとりの排泄パターンは違うので、職員全員が把握し、パターンに合わせて支援している。利用者様に気持ちよく排泄して頂けることが出来るように時間を見ながら一人ひとりに声を掛けトイレ誘導を行い、トイレで排泄していただいている。		今後も利用者様のパターンに合わせたトイレ誘導を行い、排泄の失敗やオムツやパットの使用を少なくするように努めていく。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴の曜日や時間を決めず利用者様の希望を聞き入浴して頂いている。時間も利用者様の希望を聞き午前、午後に入浴が出来るようにしている。入浴を好まない利用者様には職員が声がけを行い利用者様の意思を尊重するように努めている。		今後も入りたい時に入浴して頂き、夕食後に入浴を希望される利用者様でも、気兼ねなく入浴ができるように支援していく。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	利用者様が昼寝等休息したい場合には、無理を言わずその時の状況に応じて、居室やソファ等で休んで頂いている。又、就寝時間は決めていない。利用者様が眠りたい時に居室に戻って休んで頂く様に支援している。		夜、眠れない利用者様もいるので一人ひとりの生活習慣、その日の状況を把握し体応をしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者様一人ひとりに合った家事手伝いをしてもらい自分の役割を感じて頂くような支援をしている。レクリエーションでは、歌や体操、トランプ等の皆で行うものや、将棋、麻雀等少人数で行うもの等で楽しんで頂いている。又、天気の良い日等は近所へ散歩に行ったり、買い物兼ねてドライブにいく等気分転換が図れるよう支援している。		利用者様一人ひとりの能力や状態に合った家事手伝いやレクリエーションを行っている。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理が出来る利用者様には職員の見守りにて買い物をし、金銭管理の出来ない利用者様には、買い物に行かれた時は好きな物を選んで頂き、職員が支払いをしている。		金銭管理帳簿を作成し、領収書等を貼り付け、週1回管理者同士で確認し合っている。定期的にご家族にも確認して頂き印鑑を貰っている。月末には金銭簿と領収書のコピーをご家族に郵送している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	行事等、外へ出かける時は全員に声を掛け体調を考慮して参加して頂いている。近所の散歩やドライブ、買い物の希望がある時は職員と一緒に行かれています。ご自分から行きたいと言われない利用者様には職員が声がけをして行っている。散歩は車椅子で行かれる利用者様もいる。		自宅に行かれたり、天気のいい日には毎日近所の散歩を希望される利用者様がいますので今後も希望を聞き、外出の機会を増やしていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	利用者様から希望があった時には出来る限り出掛けて頂いている。職員も場所を考え利用者様に提案したりしている。又、他のユニットの利用者様達と一緒に出かけられる機会を作ったり、ご家族の面会時には外出されたりしている。		希望を言われない利用者様にも職員が積極的に声を掛け外出の機会を増やしていきたい。又、ご家族の協力も得て、外出あるいは外泊などの機会を作っている。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	施設内にも公衆電話を設置していつでも電話ができるようになっている。また、利用者様の中にはご自身で携帯電話を持っている方がおり、いつでも電話ができる環境作りを整えている。ご家族から手紙が来た時には希望があれば職員が読んであげる事もあり、返事を書きたいと言われたとき、ご自分で書くのが困難な場合には代筆をしたりしている。		今後も電話や手紙でご家族や友人といつでも連絡が出来るように支援していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時には挨拶を行い明るい雰囲気ですべて気軽に訪問して頂けるように心がけている。ご家族が面会に来られた時には、居室でゆっくり話をしたり、過ごして頂けるよう努めている。		ご家族と居室で過ごされている時は、ゆっくり話をしたり過ごして頂く様心がけており、職員は訪室しないようにしている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての勉強会や、月1回の身体拘束廃止委員会もあり職員全員で身体拘束について取り組んでいる。		月1回の身体拘束委員会に出席し検討している。身体拘束の他にも言葉の拘束もある事など、職員全員で認識してケアを行っている。新人職員には高齢者虐待についての資料を読んで感想文を書いてもらっている。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室は中から利用者様が自由に鍵を掛けたり開けたりできるが職員の方からは鍵を掛けていない。利用者様が外泊をされる時は承諾を得て鍵を掛けることがある。夜間は利用者様の希望にて鍵をかけて過ごされる方がいる。		鍵をしていない為、出入りは自由になっている。利用者様が一人で外に行こうとしても無理に止めないで職員が同行し散歩をして頂いている。夜間は防犯の為玄関の鍵はかけている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は利用者様のプライバシーに配慮しながら、日中、夜間の申し送りを通じて利用者様一人ひとりの様子を把握し安全を常に確認し努めている。		昼夜問わず利用者様の様子を把握し安全に過ごして頂けるよう努めている。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	怪我や事故に繋がる注意が必要な物(洗剤、包丁、薬)は必要が無い時は利用者様の手の届かない所や鍵のかかる所に保管している。		利用者様がお手伝い等で包丁を使われる時は職員が必ず見守りを行い、付き添っている。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	月1回事故防止対策委員会があり、事故の防止策を検討している。ヒヤリハット、インシデントについてもリスクマネージャーを中心に職員全員が会議で話し合い重要性を把握し事故防止に取り組んでいる。又、緊急時のマニュアルを作成し管理者を中心にマニュアルの把握に努めている。		インシデント、アクシデントが発生した時は、早急にスタッフ会議を行い、原因の解明を行い、再発防止に努めている。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変時や緊急時の対応マニュアルや勉強会、研修会を行っているが、職員全員が緊急時に対応できるレベルにはなっていない。		今後は定期的に急変時や事故発生時についての勉強会を行い、重要性を職員全員が理解する必要がある。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練は年2回消防署の協力のもと行っているが、職員全員が利用者様が安全かつ確実に避難できる方法を理解していないと思われる。		消防署だけではなく、近隣の住民の協力も必要になってくるので、今後訪問し説明を行い協力を得られるようにしていく必要がある。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	今後起こり得るリスクについて、面会時や、担当者会議で、医療・介護の立場で家族に説明し対応策を検討している。		今後もリスクについてご家族にその都度説明し話し合いを行っていききたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	食事量、水分量、入浴時、血圧測定や普段の会話や様子等で一人ひとりの健康観察を行っている。週1回医療連携看護師が訪問しており、その時に指示をもらい対応している。又、休日や夜間でも医療連携看護師に連絡、相談を行い対応している。		常時、利用者様一人ひとりの表情や様子、状態を観察し、変化が見られた時は申し送りをし職員全員が状態把握に努めている。又、24時間体制で医療連携看護師に連絡が取れるようになっている。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者様の服薬状況は処方箋を見て目的、副作用、用法、用量を把握している。服薬時には必ず声かけや見守りを行い支援を行っている。		誤薬の無いように服用前には必ず日付、朝・昼・夕・就寝前、利用者様の名前の確認を利用者様の前で行っている。又、利用者様の個別の容器を用意し、服用前に容器に入れ分けることで、誤薬を防ぐ工夫を行っている。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	申し送りの際には必ず確認している。排便表を作成し一人ひとりの排便の確認を行っている。便秘の時には水分摂取の声かけや運動、腹部マッサージを行い、必要に応じて医療連携看護師に相談し対応している。		薬に頼らずに自然に排便が出来るように食事面やレクリエーション時の適度な運動で対応している。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	ご自分で行うのが困難な利用者様には毎食後に、うがい、歯磨き、義歯洗浄の声かけ、見守り、介助を行っている。状態により、歯科受診や歯科往診を行っている。		就寝前には入れ歯洗浄剤を入れ洗浄し、口腔内の清潔保持をしている。口腔内の状態が悪くなると病気(誤嚥性肺炎等)に繋がるという事を職員は把握している。状態に応じたケアプランを作成し対応している。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食べる量や水分量は一人ひとり違うので考慮し盛り付けをしている。水分も一度にでなく、こまめに飲んで頂くようにしている。又、1日の水分量や食事量は記録に残しており、水分量は申し送り時に伝えており、職員全員が把握している。		利用者様にはそれぞれ好き嫌いがあり、食事に偏りがないように気をつけて献立作りをしている。献立作りの際は利用者様の要望を取り入れている。
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	症状別のマニュアルを作成し、感染症が発生しても対応できるようにしている。利用者様、職員は外出後のうがい、手洗いの徹底を行っている。食事前、トイレ後の手洗いも行っている。		感染症についての勉強会を行っている。又、医療連携看護師と連携をとり対応している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	調理器具は毎日消毒を行っている。台所も毎日消毒し衛生管理を行っている。食材については賞味期限、消費期限の確認をしたり、野菜類についても古くなっていないか毎日確認している。		食材に関しては冷凍、冷蔵し出来るだけその日のうちに調理し使いきるようにしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	季節の花、絵などを飾り明るい雰囲気作りを行っている。又、玄関を入るとすぐにソファを設置しているので、来客時にくつろげる空間になっている。		玄関前はスロープがあり、バリアフリーになっている。花を植えるようなスペースは無いが、もみじを植えて季節感を出している。
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	居間には大画面のテレビを設置し利用者様が好きなテレビを見れるようになっている。居間や廊下にはソファを設置しいつでも座ることができる。浴室は洗い場、浴槽も広いスペースなのでゆっくり入浴できる。階段の踊り場には季節の絵などを飾っている。毎日掃除を行い、清潔感があり、居心地良く過ごせる空間になっている。		今後さらに家庭的で居心地の良い空間で生活出来るよう工夫した環境作りに取り組んでいきたい。
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	居間や廊下のソファに座り新聞や雑誌を読まれたり、テレビを見られたり、利用者様同士が談話されたりと気軽に過ごされている。		居間には畳のスペースもあり、畳の上で利用者様同士話をしながら洗濯物をたたんだり、昼寝をしたりと思い思いに過ごせる空間になっている。
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	入居の際に利用者様やご家族に使い慣れたご本人の家具などを持って来て頂く様に説明している。居室には使い慣れた馴染みの家具等があるので居心地良く過ごされている。		居室に仏壇を置かれている利用者様もあり、利用者様から置きたい物を聞いてご家族の協力で家から持って来て頂いたり、購入している。
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	天候や気温の状況を見て、居室やホールの換気を随時行っている。		居室の窓開けは利用者様の体調を考え行っている。又、空気乾燥しないように、洗面器に水を張る等して対応している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>ホーム内はバリアフリーになっており、廊下や浴室、トイレ等手すりを設置している。利用者様にとって安全で自立した生活が送れるように工夫されている。</p>	<p>手すりだけではなく、椅子の配置にも気を配り、何処に何を置いたら安全かを考え、環境作りに取り組んでいきたい。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>利用者様一人ひとりの力を職員全員が把握し出来ることは声がけ、見守りにて行っていたい。失敗をされた時には、プライドを傷つけないように対応している。</p>	<p>職員と一緒に出来ることを強制することなく楽しく行って頂くような声がけや見守りを行っていく。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>季節や天候の良い日には、行事として駐車場でバーベキューをしたり花火大会をしたり、天候の良い日にはウッドデッキに出て日向ぼっこ等もしている。</p>	<p>天気のいい日には、駐車場に椅子を置き日光浴を行っている。今後も、駐車場やウッドデッキを利用して入居者様に楽しんで生活して頂きたい。</p>

. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>ご本人やご家族から今まで生活されてきた事をお聞きしながら参考にして本人やご家族の希望など思いや願いが叶うよう心かけている。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>ゆとりあるケアを目指している。職員と利用者様が一緒にお茶を飲みながら話ができる時間を大切にしている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>一人ひとりの生活のペースを大切にのんびり、楽しく暮らして頂いている。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>家事手伝い等は利用者様と一緒にいき、味付け等教えてもらう事で生き生きとした表情が見られている。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>希望に添えるように対応している。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>医療連携看護師が健康管理の為、衣週間に1回訪問をしていて24時間体制で常に連絡が取れるようになっている。</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>状況に応じた柔軟な対応をしており、安心した生活を送って頂いている。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p> <p>面会時やご家族から連絡があった時は話を聞き、少しでも不安な事がなくなるように話し合いを行い、その都度、管理者を中心に解決策を職員で話し合っている。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>頻度はそれぞれで異なるが、利用者様によって友人等の面会がある。</p>

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	都合により参加出来ないご家族や関係者もいる為増えているとはいえません。今後も理解や興味を持って頂けるように努めていく。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	認知症を理解して仕事に取り組み、個人個人の目標に向けて責任や役割を持ち、活気のある仕事ができている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	不満などが無いように要望を聞き入れるように努めている。今後も利用者様の気持ちを十分に汲み取れるよう努めていきたい。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	ご家族からの要望は随時対応しているが、要望等ないご家族もいる為、こちらから引き出す必要がある。今後も全てのご家族に満足して頂けるよう努めていきたい。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

同系列のグループホームでの行事には参加し、たくさんの人との交流の機会がある。近くの幼稚園児が来て、お遊戯や歌を歌ってくれたり、クリスマス会には中高生が合唱を聞かせに来てくれたりしている。近所の方がマジックをしてくれたり、ご自分で作られた物を「飾って下さい。」と持って来て下さる等、ボランティアや近所の方達との交流も少しずつ増えてきている。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームよろこびの家茉景 2階	評価実施年月日	平成21年1月1日
評価実施構成員氏名	高杉・伊達・松倉・笹田・菊地・住吉・滝田・佐藤・田原		
記録者氏名	高杉	記録年月日	平成21年1月1日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	理念は毎日の朝礼時に復唱している。又、スタッフルーム等に掲示している。新規採用者にはオリエンテーション時に説明している。	理念については職員で話し合い新しい理念を作っていきたい。
2	理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を館内に提示し、朝礼時に唱和している。また、いつでも理念を念頭に置く事を目的にして、日々の介護・自分・他の職員にも注意し合える環境を作っている。新人オリエンテーションの際には特に理念の大切さと意味の理解に努めている。	理念を実行していくには、1、ご本人の心に寄り添い、生き生きと笑顔ある生活が送れるように支援する。2、なじみある生活空間を作り、ご本人の力が可能な限り発揮できる様に支援する。3、地域とのふれあいを通し、自由で豊かな心と生活が保てるように支援する。4、家族の方が安心と満足を得られ、ご本人との楽しい時間が過ごせる様に支援する。以上の事が出来ているか、常に職員と話し合いを行っています。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	広報誌に理念を掲載したり、運営推進会議でも理念の大切さを述べている。	理念を掲示したりしていますが、より良いグループホームを目指していく上で随時理念を見直して改善していきたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	行事の時等は、あいさつ文を作り参加して頂けるよう挨拶をしている。近所の方達には挨拶を行なっているが、まだ気軽な付き合いが出来ていない。	散歩時など、お会いした時は挨拶をするように職員間で徹底している。近所の方が気軽に来設して頂ける様にしていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町会の夏祭りに参加したり、近くの幼稚園の園児たちや高校生の方たちがホームに来て歌や踊りを披露してくれたり、入居者様と一緒に手遊びをしてくれたり、ボランティアで近所の方がマジックショーを見せてくれたりと交流を持っている。	地域との交流が増えるように当グループホームをたくさんの方達に知って頂くよう様々な交流の場へ参加し、又、来訪して頂けるようにしていきたい。
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域のお役に立てるよう、町会主催の夏祭りに参加のお誘いがあった時は参加できる体制をとっている。町会長さんとも参加できる事がないか、常に話をして町会の行事に参加できるように取り組みしている。	町内会の夏祭りには毎年参加していますが、その他の行事にも積極的に参加し交流を深めていく必要があります。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>スタッフ会議で自己評価、外部評価について話し合っている。評価の結果を生かして改善に努めている。</p>	<p>今後も管理者を中心にスタッフ会議で話し合い職員全員が理解出来るようにしていく。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>2ヶ月に一回運営推進会議を行い、そこでの意見を今後のサービス向上に繋げて参加者の意見や質疑応答で情報共有化を行っている。参加者数が少なく今後どのように会議をすすめてよいか検討している。</p>	<p>ご家族の参加が少なく、意見交換があまり行なえていない為、開催時間や日程の見直しが必要です。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>現在、市町村主催の勉強会に参加しているが関わりは運営推進会議に限られている。</p>	<p>今後もサービスの向上の為に市町村と連携を図っていきたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>現在、権利擁護を必要とする入居者様がおられない為、同制度の活用は行っていない。</p>	<p>今後は必要な制度を利用する入居者様が増えてくると考えられるので、権利擁護を職員の誰もが説明できる体制を整えていく。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>全グループホーム内に身体拘束廃止委員がいて、毎月会議を行ない防止に努めている。職員1人ひとりが虐待防止に努め、スタッフ会議や身体拘束廃止委員会で虐待を起こさない為の話し合いを行なっている。</p>	<p>身体拘束廃止委員会で事例検討を行ない、身体的虐待、言葉の虐待について意見交換を行なっている。新しく入った職員には高齢者虐待についての資料を読み感想文を書いて貰い虐待への意識付けを行なっている。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>ご本人、ご家族に十分に説明を行ない、理解して頂き契約、解約を行なっている。不安や疑問があった時には気軽に言うて頂けるような対応を心がけている。入退居時だけでは十分に理解されない事があるので説明し対応している。</p>	<p>ご本人、ご家族と話す機会を作り誠意を持って相談にのり納得して頂けるような説明を行っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情相談窓口担当者を設置して対応している。利用者様やご家族から不満や苦情を聞かれた時は職員全員で原因究明、改善策を話し合い対応出来るよう努めている。		各ユニットだけではなく全グループホームで情報を共有する為、全体管理者会議で詳しく報告し意見交換を行なっている。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	健康状態は面会時に報告している。病院受診の結果も面会時や遠方のご家族には電話で報告している。金銭管理は管理者が行なっている。レシート、領収書を保管し帳簿は週1回管理者同士で確認し合い本部の方にも月1回確認して貰っている。レシート、領収書、帳簿は請求書郵送時に同封している。職員の写真を掲示している。異動等があった時には面会時にお伝えしている。		健康状態については職員全員がご家族に報告できる体制には、まだなっていない部分もある為、職員全員が利用者様の健康状態を把握し、説明できるようにしていきたい。金銭管理も徹底して行なっていく。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情は管理者を中心に職員で対応している。苦情が出た時は会議を開き苦情の原因究明や改善策を検討している。苦情処理簿を作成し職員全員で情報を共有し同じ苦情がでないように努めている。		スタッフ会議、全体管理者会議で苦情を受けた時から対応までを詳しく報告、話し合いを行ない同じ苦情が出ないよう努めている。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会議、個々の面談を行ない職員の意見や提案を聞いている。又、スタッフ会議でも話し合い共有し業務に反映している。		今後も職員が気軽に意見交換が出来るよう管理者との信頼関係を作っていく環境作りを行なっていく。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	行事等では職員の数を増やし事故等が起らないように努めている。その為の勤務表の作成、調節を行なっている。勤務体制も管理者を中心にスタッフ会議で話し合い変更を行なっている。		今後も必要に応じた勤務時間の変更を職員全員で話し合い決定していく。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動は極力行なわないようにしている。やむをえない事情の異動や退職は事前に利用者様に報告し動揺がないよう対応している。退職や異動の希望があった時は理由を聞き原因を取り除きやむおえない理由以外は残れるよう対応している。		利用者様の動揺を最小限に抑えるよう対応している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>定期的に勉強会を行ったり、法人外の研修の呼びかけ、参加を行っている。参加したい職員には勤務調節を行ない、参加している。参加後には報告書を作成して貰い参加出来なかった職員にも共有できるようにしている。</p>	<p>技術や知識の向上の為、いろいろな勉強会や研修に参加して貰うよう管理者が必要性を伝えている。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>地域をブロックに分けて、定期的に勉強会や交流する機会があり、参加している。当法人内外ではパソコンを使いメール等で情報交換を行なっている。</p>	<p>今後、他の同業者との連携を図り、意見交換や勉強会に管理者だけではなく全職員が参加出来るようにしていきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>悩みがある時やストレスを感じたときは気軽に管理者に相談出来るような環境作りを行なっている。日頃の会話等からでも管理者は気持ちを汲み取る努力は行なっている。又、職員同士も気兼ねなく意見を言い合えるよう努めている。交流会も行なっている。</p>	<p>職員同士のコミュニケーションが十分に図れていない面がある為、管理者が中心となり職員のストレスの軽減と悩みの解消を図り働きやすい環境作りを努めていきたい。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>管理者は職員一人ひとりの目標を把握し、向上心を持って仕事が出来よう努めている。管理者は職員と人事考課と面談を行ない、一人ひとりの努力や実績を大切に尊重し合える環境作りを行なっている。</p>	<p>人事考課や面談時等でアドバイスをしている。又、随時、職員と話し合える環境を作っている。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居窓口担当者と管理者が中心になり、生活の上で利用者様が困っている事、不安な事を初期から利用後も職員間で把握に努め、生活の中で常に不安や悩みを聞く機会を作っている。</p>	<p>入居されてからは、カンファレンスやスタッフ会議で話し合い利用者様の要望や不安を職員で情報を共有しケアに繋げている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居窓口担当者と管理者が、ご家族との面談時に現状や困っている事、不安な事を聞き、今後についての相談や助言を行なっている。</p>	<p>誰でも気軽に相談や見学する事が出来るよう事前に連絡がなくても受け入れ困り事等を聞いて助言を行なっている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ケアプランの作成時に利用者様、ご家族が必要としている支援を第1のサービスにしている。利用者様一人ひとりの過去の経験を生かしたケアに向けて情報収集に努めている。		収集した情報から利用者様に合ったケアサービスを職員で検討している。又、残存機能を把握しケアサービスに取り入れている。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用者様が馴染めるよう職員は場の雰囲気に似合ったサービスをして会話やコミュニケーションの工夫を行なっている。拒否された場合は無理強いはせず時間をかけて声かけを行っている。利用者様が今一番何が必要なのかを重視しながら観察を行ない職員間で検討し利用者様本位の生活を目指すよう努めている。		これまでの生活習慣を変えることなく重視する事で精神的に落ち着いて生活が出来るよう努めている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者様を人生の大先輩であるという気持ちを忘れず接している。食事作り等で切り方や味付け等を教えて頂く等、人生の経験の中での知識や知恵を学ぶ事も忘れず一緒に過ごす事で利用者様が楽しく安心して生活して頂けるよう心がけている。		利用者様1人ひとりの出来る事、出来ない事を職員全員で把握し出来ない時には職員がさりげなくお手伝いを行ない職員と一緒に出来たという達成感を味わえるよう努めている。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の要望を大切に利用者様と接している。ご家族と職員と一緒に利用者様を支えていく関係作りに努めている。遠方のご家族には電話にて利用者様の生活状況や体調等報告し要望等を聞いている。		利用者様の生活状況を面会時や電話で報告し、ご家族からも要望を聞いている。今後もご家族に安心して頂けるよう支援を行なっていく。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	職員全員で利用者様の情報を共有し、状況報告を面会時や電話で行なっている。より良い家族関係が築けるよう支援している。		面会又は電話で生活状況を報告している。状態変化や緊急受診等の時、ご家族に協力して頂く時には連絡を行なっている。行事の時にも参加して頂き利用者様と良い関係を築けるよう努めている。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	長年のお友達や知人との関係が続くよう面会を設けたりしている。長年、通っている美容院やお店等も利用されている。		利用者様の希望があれば職員と一緒に行かれている。又、自宅へ行かれる時も職員と一緒に行かれている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者様の性格を把握して食事時等にテーブルに座る場所等を考えコミュニケーションが図れるよう努めている。1人での利用者様には職員が間に入り他の利用者様とコミュニケーションが図れるようお手伝いし寂しさを感じないよう努めている。		利用者様同士がコミュニケーションを図れるようレクリエーション、ドライブ、散歩等の声かけを行ない支援している。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	現在サービス利用が終了しても継続的な関わりを必要とする方がいないので評価は困難である。		今後は希望される方については対応が出来る体制を作っていく必要がある。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	介護計画、ケアプラン等から利用者様、ご家族からの暮らし方の希望や意見を聞き、利用者様の生活が満足して頂けるよう努めている。		利用者様、ご家族から話を聞きカンファレンス会議等で職員で話し合い満足のいく生活が出来るよう支援している。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に利用者様、ご家族から今までの生活を聞きフェイスシートを作成している。		利用者様一人ひとりの生活歴を職員全員が把握し慣れた生活環境で生活が出来るよう支援している。随時ご家族からも話を聞き情報収集をしている。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	朝、夕の申し送り、毎日の記録で利用者様の一日の過ごされ方、心身状態を職員全員が把握出来るよう努めている。		利用者様一人ひとりの個別ケアが提供出来るよう利用者様の一日の過ごされ方、心身の状態を職員間で申し送りを行なっている。会話の中から悩みやストレス等があれば少しでも和らげられるよう配慮していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者様、ご家族との話し合いや会議等を開き「ご本人がより良く暮らす為には」と言う事を第一に考え介護計画やケアプランに反映するよう努めている。		3ヶ月毎にケアプランの見直しを行ない、利用者様、ご家族の要望を聞きそれらをもとに介護計画、ケアプランを作成して職員全員が計画を把握し取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月毎に一度、又、状態変化時には、計画作成担当者と担当職員を中心にカンファレンスやモニタリングを行ないケアプランの見直し、改善を行っている。又、利用者様やご家族の意見等も介護計画に反映している。		利用者様やご家族の要望を大切にしてケアプランの見直しを行っている。今後も利用者様の状態の変化を見逃さずより良いケアを行っていききたい。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者様1人ひとりのケアの記録が毎日行なわれていて職員全員が情報を把握出来るようになっている。記録は健康状態に関わる事や生活の様子等が記録に残されている。		記録、申し送りは毎日行なわれて気がついた事は職員で話し合い改善に努めている。記録に関しては利用者様の生活面が良く分るような記録の仕方を職員全員が出来るよう努めていききたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	利用者様やご家族の要望が取り入れられるように話し合いをして様々な対応を行なうよう努めている。		今後も利用者様、ご家族の要望をできる限り行なっていく事は信頼関係を築いていくうえで大事な事なので柔軟な支援が出来るように努めていききたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	近くの幼稚園や高校生、ボランティアの協力にて行事への参加等支援している。年2回消防に協力して頂き防火訓練を行っている。警察署の方にも来て頂き高齢者の交通安全の講義等も行なっている。		今後は、幼稚園、高校、ボランティア、消防、警察だけでなく多方面に協力と理解が得られるようにしていく。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	入居時に他の機関を利用していた時はその機関の担当者と情報交換を行なっている。地域の他のケアマネージャーとの連携も図り情報交換を行なっている。		今後は積極的に活用出来るような支援の確立が必要。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	利用者様の意向や必要性により地域包括支援センターと連携できる体制は整っているが、現在、権利擁護を利用されている利用者様はいない。		多様化する利用者様のニーズに応える為にも今後、地域包括支援センターとの連携や協働体制を強化する必要がある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>利用者様1人ひとりにかかりつけの医療機関があり、定期的を受診している。又、医療連携看護師が週1回健康管理で訪問している。体調に変化が見られた時は医療連携看護師に連絡し指示を貰い対応している。</p>		<p>利用者様1人ひとりのかかりつけの医療機関に職員と一緒に受診し担当医に相談したり指示を貰い対応している。</p>
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>ご家族と相談して担当医への受診を行なっている。受診時には職員も一緒に行き相談を行ない助言等が受けられるようになっていく。</p>		<p>担当医へ受診して相談やアドバイスを貰っている。</p>
45	<p>看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>医療連携看護師が週1回健康管理で訪問している。その時に相談を行ない指示を貰って対応している。体調に変化が見られた時は連絡がとれる体制になっていて24時間体制で連絡、相談ができるようになっていく。</p>		<p>医療連携看護師とは24時間対応できる体制になっていて緊急時の相談、助言が出来る体制になっている。</p>
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>管理者が中心となり入院先の病院と連絡を行ない情報交換を行い早期退院に向けての支援を行なっている。</p>		<p>入院先の担当医や看護師と連絡を取り合い症状等について話し合いを行ない早期退院に向けての連携をとっている。</p>
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>ご家族が終末期をグループホームで看取りたいと希望された時は、かかりつけ医の主治医に連絡し相談をして対応できる体制になっているが、全ての主治医と連携は図れていない。</p>		<p>今後は利用者様全員の主治医と協力が出来て利用者様、ご家族が安心した終末期が送れるようにしていく必要がある。現在、見取りを行なった事はないが、今後、利用者様、ご家族の希望に応えられるよう各種サービスと連携をとっていきたい。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>サービス担当者会議等で話し合い今後の体調の変化等に備え検討や準備を行なっている。</p>		<p>今後も医療連携看護師と連携を図りながら支援していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>他の居宅へ移り住む時や入居の時には前の居宅の関係者に利用者様の情報収集を行ないダメージを最小限に抑えるよう努めている。</p>		<p>他の居宅への希望があった時は移られる居宅の関係者と連携を図り住替えによるダメージを軽減に抑えるよう努めていきたい。</p>
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>利用者様1人ひとりのプライバシー等を考慮している。会議等の議事録には利用者様の名前は記入しないで居室番号を記入している。</p>		<p>個人情報の保護については利用者様、ご家族に安心感を持って頂けるよう努めている。記録等の個人情報は鍵のかかる場所に保管し鍵は管理者が保管している。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>茶話会で飲み物を出す時は利用者様の希望を聞き飲みたい物を出して飲んで頂いている。外食や出前の時もメニュー表を見て頂き利用者様に決めて頂いている。毎日の生活の中で利用者様が自己決定が出来るような声かけや説明を行なっている。</p>		<p>1人ひとりの嗜好は違うので、コミュニケーションを大事にして嗜好について理解を深めている。</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>できる限り利用者様のペースに合わせている。希望等も聞き個別の買い物や入浴もその日の希望を聞き対応している。入浴を拒否された時も強制せず翌日に再度声かけを行なっている。</p>		<p>利用者様のその日の希望を聞き対応しているが十分な対応はまだ出来ない。今後も個別対応を心がけていきたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>訪問理容、美容は利用者様やご家族と相談しながら決めている。長年通われている美容院に行かれる利用者様もいる。服装等も季節に合った洋服をご本人と一緒に決めて着て頂いている。ご家族にも協力して頂き、季節に合った服等を持って来て頂いている。</p>		<p>ご本人の希望等をできる限り大切にしている。</p>
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>毎日の食事時や会話の中でご本人の好きな物、嫌いな物、食べたい物を聞いている。食事の盛り付け、配膳、後片付けも一緒に行なっている。</p>		<p>利用者様1人ひとりの出来る事、出来ない事等、能力に合わせた取り組みを行なっていて利用者様と一緒にいる。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	現在は飲酒、喫煙をされる利用者様はいません。10時と15時のおやつでは利用者様1人ひとりに飲みたいものを聞いている。又、お小遣いから買いたいと希望された利用者様には職員と一緒に買い物に行かれています。		季節にあったおやつや飲み物を出したり、食べたい物、飲みたいものの希望を聞き取り入れるようにしている。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	利用者様一人ひとりの排泄パターンを職員全員が把握しトイレ誘導を行ない、失敗がなくなるよう努めている。排泄の失敗が見られた時は利用者様の自尊心を傷つけないよう後片付けを行なっている。		今後も定期的なトイレ誘導の声かけを行ない、失敗を減らしたりパットの使用を少なくするよう努めている。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴の曜日等は決めず利用者様の希望を聞き入浴するようにしている。時間も利用者様の希望を聞き午前、午後に入浴が出来るようにしている。ご自分から入浴したいと言われない利用者様には職員が声かけを行ない利用者様の意思を尊重するよう努めている。		現在は夕食後に入浴を希望される利用者様はいませんが今後希望された時は気兼ねなく入浴できるよう支援していく。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	就寝時間は決めていない。利用者様が眠たい時に居室に戻って休まれるよう努めている。利用者様一人ひとりの体調や習慣に応じて様子観察を行ないながら自然に休まれるよう支援している。		夜間の見回りの時に眠られていない入居者様がいましたら、少し話をして自然に眠られるよう支援している。又、昼寝は居室でも出来ますがソファーやたたみの上等好きな場所で昼寝をして頂いている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者様一人ひとりに合った出来る家事手伝いを行なって頂き自分の役割を感じて貰えるよう支援している。レクリエーションではトランプ、体操等皆で行なうレクリエーションや将棋等少人数で行なうもの等で楽しんで頂いている。天気の良い日には近所に散歩へ出かけたりドライブに行かれたりして外の空気を吸ったり風に当たったり等して気分転換を図って頂くよう支援している。		利用者様一人ひとりの能力、体力にあった家事手伝いやレクリエーションを行なっている。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理が出来る利用者様には職員が見守りを行ない買い物をして支払いもご自分で行なって頂いている。金銭管理が出来ない利用者様は買い物時には欲しい物を選んで頂き職員が支払いのお手伝いを行なっている。		金銭管理簿を作成し領収書等を貼り付け週1回管理者同士で確認し合っている。定期的にご家族にも確認して貰い印鑑を買っている。月末には金銭簿と領収書のコピーをご家族に郵送している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	行事等で外に出かける時は利用者様全員に声をかけ、体調を考慮して参加して頂いている。近所の散歩やドライブ、買い物希望がある時は職員と一緒に行かれています。ご自分から行きたいと言われない利用者様には職員が声かけをして行っている。散歩は車椅子で行かれる利用者様もいる。		自宅に行かれたり、天気の良い日は毎日近所の散歩に行きたいと希望される利用者様がいるので今後も希望を聞き、外出の機会を多くしていきたい。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	利用者様から希望があった時には出来る限り出掛けている。職員も場所を考え利用者様に提案したりしている。ご自分から行きたいと言われる利用者様と言われない利用者様がいるので外出頻度に少し差がある。		希望を言われない利用者様にも職員が積極的に声かけを行ない外出機会を増やしていきたい。季節に合わせて今までに行った事がない場所等に行き楽しんで頂けるよう支援していく。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	ご家族から電話があった時はご本人とお話が出来るよう支援している。ホームに公衆電話があり、いつでもご自分から電話が出来るようになっている。又、子機電話もあり居室でお話出来るようになっている。ご家族から手紙が来た時は希望があれば職員が読んであげる事もあり、返事を書きたいと言われた時は代筆をしたりしている。		今後も電話や手紙等でご家族やお友達と連絡が出来るようにしていきたい。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族等が面会に来られた時は居室でゆっくり話をしたり、過ごして頂くよう心がけている。その時は職員は訪室しないよう心がけている。		いつでも気軽に来て頂けるよう笑顔と挨拶を忘れないよう心がけている。
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員間で身体拘束について話し合い認識を高めている。勉強会や月1回の身体拘束廃止委員会もあり全グループホームで身体拘束について取り組んでいる。		月1回の身体拘束廃止委員会に出席して検討している。身体拘束の他にも言葉の拘束もある事等、職員全員が認識してケアを行っている。新人職員には高齢者虐待についての資料を読んで感想文を書いて貰っている。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室は中から利用者様が自由に鍵をかけたり開けたり出来るが職員のほうからは鍵をかけていない。利用者様が外泊等される時は承諾を得て鍵をかける事がある。夜間、利用者様の希望にて鍵をかけて過ごされる方がいる。		鍵をしていない為、出入りは自由です。利用者様が1人で外に行かれようとしても止めはしないで職員と一緒に同行し散歩等を行なっている。夜間は防犯の為に玄関の鍵はかけている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は利用者様のプライバシーを考慮しながら様子等を把握し、安全確認を行なっている。夜間も見回りを行ない安全確認を行なっている。		昼夜問わず利用者様の様子を把握し安全に過ごして頂けるよう努めている。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	怪我や事故に繋がる注意が必要な物(洗剤、包丁、薬等)は必要がない時は利用者様の手の届かない所や鍵のかかる場所に保管している。		注意が必要な物の管理はきちんと行なっていき、お手伝い等で利用者様が包丁を使われる時は職員が必ず、付き添い、見守りを行なっている。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	月1回事故防止委員会があり事故の重要性、防止策を検討している。ヒヤリハット、インシデントについてもリスクマネージャーを中心に職員全員が会議等で話し合い重要性を把握するよう事故防止に取り組んでいる。新人職員等にはまだ把握出来ない職員もいる為、今後も重要性について勉強していくよう努める。緊急時等のマニュアルも作成していて管理者を中心にマニュアルの把握に努めている。		インシデント等が発生した時は、早急に会議を開き原因の解明、再発防止に努めている。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルがあり勉強会も行なっているが、職員全員が緊急時に対応できるレベルにはなっていない。		定期的に急変時や事故発生時についての勉強会を行ない重要性を職員全員が理解して貰う必要がある。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練は年2回、消防署の協力にて行なっているが、職員全員が利用者様が安全にかつ確実に避難誘導できる方法は理解していないと思われる。		消防だけでなく、近隣の住人の協力も必要になってくるので今後、訪問し説明を行ない協力が得られるようにしていく必要がある。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	今後起こり得るリスクについて面会時や担当者会議時に医療、介護のそれぞれの立場でご家族に説明を行ない対応策を検討している。		ご家族に今後起こり得るリスクや症状をその都度説明し話し合いを行なっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>食事時の食事量や水分量、入浴や血圧測定、普段の会話等で一人ひとりの健康状態の観察を行なっている。週に1回医療連携看護師が訪問しておりその時に指示を頂き対応している。又、休日や夜間についても医療連携看護師に連絡、相談を行ない指示を受け対応している。</p>	<p>利用者様に体調の変化が見られた時は申し送りを行ない全職員が状況把握に努めている。又、24時間体制で医療連携看護師に連絡がとれるようになっている。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>入居者様一人ひとりの服薬状況は処方箋を見て把握している。服薬時には必ず声がけや見守りを行ない一人ひとりにあった用法、用量を守る事に努めている。</p>	<p>誤薬を行なわないよう服薬前には必ず朝、昼、夕、就寝前、利用者様の名前を確認を利用者様本人の前で行なっている。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>必ず申し送りの時に確認を行なっている。便秘気味、又便秘をしている利用者様には水分補給の声がけやレクリエーション等での運動、腹部マッサージを行なっている。必要に応じて医療連携看護師に連絡し相談して対応している。</p>	<p>薬に頼らずに自然に排便が出来るよう食事面やレクリエーション時の適度な運動で対応している。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>ご自分で行なえない利用者様には毎食後、うがい、歯磨き、入れ歯洗浄の声がけ、見守りを行なっている。就寝前には入れ歯洗浄剤に漬けていて口腔内の清潔保持を行なうよう努めている。場合により歯科受診や往診を行なっている。</p>	<p>職員は口腔内の状態が悪くなると他の病気(誤嚥性肺炎等)に繋がると言う事を把握している。状態に応じたケアプランで対応している。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食べる量や水分量は利用者様1人ひとり違うのでその事を考慮して盛り付け等を行なっている。食事や水分を一度に摂る事が出来ない利用者様には少しづつ小分けにしたり、時間をかけてゆっくり食べて頂くようにしている。一日の食事量と水分量は記録に残している。</p>	<p>利用者様1人ひとり、好き嫌いがあるので食事に偏りがないよう気をつけて献立作りを行なっている。献立作りには利用者様の希望を聞きながら作成している。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>症状別のマニュアルを作成し、感染症が発生しても対応出来るようにしている。利用者様、職員は外出後のうがい、手洗いの徹底を行なっている。食事前、トイレ後の手洗いも行なっている。</p>	<p>感染症の勉強会を行なっている。医療連携と協力し対応している。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	調理器具は毎日消毒を行なっている。台所も毎日消毒を行ない衛生管理を行なっている。食材については賞味期限、消費期限のチェックを行ったり、期限の表示がない野菜等については古くなっていないか、傷んでいないかの確認を毎日行なっている。		食材は傷み等がないよう出来るだけ残らないよう調理している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	季節の花や、絵等を飾り、明るい雰囲気作りを行なっている。玄関を入るとソファを設置しているので来客時等、くつろげる空間になっている。		玄関前はスロープがあり、バリアフリーになっている。花を植えるようなスペースはないがもみじを植えて季節感をだしている。
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	居間には大画面のテレビを設置し利用者様が好きなテレビを見れるようになっている。居間や廊下にはソファを設置しいつでも座る事が出来る。浴室は洗い場、浴槽も広いスペースなのでゆっくり入浴出来る。階段の踊り場には季節の絵等も貼っている。毎日、掃除を行ない清潔感があり、居心地良く過ごせる空間になっている。		今後、家庭的で利用者様にとって居心地の良い、又、ご家族にも面会に来られた時には居心地良く過ごせるような環境作りに取り組んでいきたい。
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	居間や廊下のソファに座り1人で新聞や雑誌を読まれたり、テレビを見られたり、利用者様同士が談話されたり、気軽に過ごされている。居間にはたたみ部分もあり横になったりされている。		多目的室の窓から外の景色を見られ、職員や利用者様同士がお話されている。道を歩かれている方が手を振って下さる事もあります。
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	入居の際に利用者様やご家族に使い慣れたご本人の家具等を持って来て頂くよう説明している。居室には使い慣れた馴染みの家具などがあるので居心地良く過ごされている。		居室に仏壇を置かれている利用者様もいます。利用者様から欲しい物を聞きご家族の協力で家から持って来て頂いたり、購入している。
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	天候や気温の状況で居室、ホールの窓を1日数回開け空気の入替えを行ない換気して温度調節を行なっている。		居室の窓開けは体調を考慮したり、居室にいない時に利用者様の承諾を得て行なっている。居室の空気乾燥を防ぐ為、濡れタオル等を置き対応している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>ホーム全体に安全面を配慮して廊下、浴室、トイレ等手すりを設置しバリアフリーになっている。</p>	<p>段差のあるたたみのスペースに行かれる時は職員と一緒に行き安全確認を行なっている。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>利用者様1人ひとりの力を職員全員が把握し出来る事は声がけ、見守りにて行なって頂いている。失敗等の時にはプライドを傷つけないようお手伝い出来るよう対応に努めている。</p>	<p>職員と一緒に出来る事を強制する事なく楽しく行なって頂くよう声がけ、見守りを行なっている。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>季節や天候の良い日には行事として駐車場でバーベキューや花火大会を行なったり、ウッドデッキにて日向ぼっこ等もしている。</p>	<p>駐車場のスペースは限られているが今後も、周りの環境を利用して季節感を味わったり楽しんで頂けるよう取組んでいきたい。</p>

. サービスの成果に関する項目			
	項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p>	<p>今まで、生活されてきた事を利用者様、ご家族から話を聞き参考にして、希望等を尊重し思いや願いが叶うよう心がけている。</p>
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>	<p>ゆとりのあるケアを目標にしている。利用者様と職員と一緒に話ができる時間を大切にしている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>	<p>利用者様1人ひとりの生活のペースを大切にしている。 楽しく、のんびり生活をして頂いている。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>	<p>ご自分が出来る家事手伝い等を職員と一緒にこなす事で出来たという達成感を感じて貰えるよう対応している。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>	<p>希望を聞き入れ対応している。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>	<p>週1回医療連携看護師が健康管理で訪問しており、24時間体制で連絡が取れるようになっている。</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>	<p>その時々々の状況にて柔軟な対応をして、安心した生活を送って頂いている。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p>	<p>面会時や電話等で連絡があった時は話を聞き少しでも不安な事がなくなるよう解決策を管理者を中心に職員で検討している。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>	<p>利用者様により異なるが友人等の面会がある方もいる。</p>

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	運営推進会議には都合により参加されないご家族や関係者もいるので増えているとは言えない。今後少しずつ理解等を持って頂くよう努めていく。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2 / 3くらいが 職員の1 / 3くらいが ほとんどいない	認知症を理解し職員1人ひとりの目標に向けて取り組み、役割や責任又、資格を十分にいかして仕事が出来ている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2 / 3くらいが 利用者の1 / 3くらいが ほとんどいない	要望等は聞き入れるように努めている。不満等の訴えがあった時はその都度対応している。今後も利用者様の気持ちや要望をくみ取れるよう努めていきたい。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2 / 3くらいが 家族等の1 / 3くらいが ほとんどいない	ご家族からの要望はその都度対応している。要望等を言われたいご家族にはこちらから話をして引き出す必要がある。今後も利用者様全員のご家族に満足して頂けるよう努めていきたい。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ・同系列のグループホームでの行事には参加し、たくさんの人との交流の機会がある。
- ・近くの幼稚園児が来て、お遊戯や歌を歌ってくれたり、クリスマス会には中高校生が合唱を聞かせて来てくれたりしている。近所の方がマジックをしてくれたり、ご自分で作られた物を「飾って下さい」と持って来て下さる等、ボランティアや近所の方たちとの交流も少しずつ、増えてきている。